

## 雲林寺（猫寺）

雲林寺は400年以上前から臨済宗の寺院であったが、現在では「猫寺」として広く知られている。かつては、萩への藩庁移転を主導した毛利家の当主・毛利輝元（1553-1625）を祀った天樹院の末院であった。輝元の家臣・長井元房（?-1625年）は、1625年の主君の死後に殉死したが、その際に飼い猫が悲しみのあまり自分の舌を噛み切って死んでしまったと言われている。

雲林寺と元房の猫との歴史的なつながりは薄いですが、本堂には、猫をテーマにした美術品、雑誌や新聞の切り抜き、ペットの猫の写真、猫をテーマにした宗教的な工芸品など、猫をテーマにした膨大な数の品々が展示されている。また、数匹の猫がこの寺を住処にしている。

1996年に角田慈成氏が雲林寺の住職に就任したときは、ここまで猫との関係が深まるとは思っていなかったが、今では猫を題材にした物語や資料を使って、参拝者に仏様の知恵を伝えている。また、亡くなったペットの供養も行っている。角田氏の指導のもと、雲林寺は世界中から観光客が訪れる人気スポットとなった。日本のアニメや漫画の有名なイラストレーターが猫をテーマにした作品を寄贈しているほか、境内にある彫刻の多くは、山口を拠点に活動するチェーンソーアーティストの林隆雄氏の作品である。

雲林寺では、猫をテーマにした絵馬やお守り、ユーモラスな猫のイラストが描かれた法華経の写しなどを制作している。また、近くの村で発見された800体以上の地蔵菩薩が安置されている。